

広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

歩くんですよ!?! ホヤって 第1回



(01 ~ 04) 沖縄のチャツボヤ *Didemnum molle* にはホワイト、グレー、ブラウン、ラージの4タイプが見られる。チーム広瀬はこれら4タイプの繁殖時期などが異なることに着目し、沖縄島沿岸の各地から採集した各タイプの遺伝子の一部を解析。その結果、これら4タイプは遺伝的に異なることが判明した。「将来的にそれぞれ別種と扱うのが望ましいですね」と広瀬先生。写真=広瀬裕一
 ウルトラマンボヤという愛称で呼ばれる *Clavelina* sp. (05) とクロスジツツボヤ *C. obesa* (06)。クラベリーナ属のホヤは被写体として人気上昇中。写真: 杉山渚 (広瀬研究室)

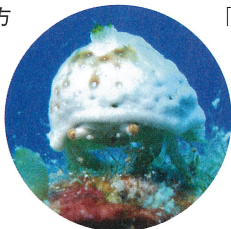
はやいもので、ウミウシに興味を持ち始めてから13年の歳月が流れた。

初めのうちは潜ってウミウシを見つけるたびに「きゃー」「きれいー」「かわいー」と喜ぶ、ただのウミウシ好きだった。それがいつの間にか生物としてのウミウシに興味を抱くようになり、「本州のウミウシ」執筆の時点で「できれば大学等の研究機関に在籍して、より真剣にウミウシさんと向き合いたい」と願うようになっていた。

そんな私を拾ってくれたのがタイトルに掲げた「広瀬研」。正式名称は、琉球大学理学部海洋自然科学科生物系の、広瀬裕一教授の研究室。現在広瀬先生の指導のもとで中野は大学院生をやっています。

そんな広瀬先生のご専門は、ウミウシではなくホヤである。サブタイトルを「無脊椎動物の話」としたとおり、研究室ではウミウシをはじめ様々な無脊椎動物を扱っているが、あくまでも先生のご専門はホヤ。

ホヤ、というと私などは東北地方の酒の肴をつい連想してしまうのだが、我が琉球の海にあのホヤはいない。代わりに南の海ならではのホヤがいる。単体性もいれば群体性もある。この違いはいずれ書く



チャツボヤを背負って歩く、愛称ユキコボウシガニ。写真=今川都 (Ocean Blue)

として、カラフルなやつから地味なやつまで色も形もいろいろ。

で、先生の最近のお気に入り、比較的地味な緑色をした=内部に共生藻を持つやつらのほうだ。

その先生に、入学して最初のゼミで聞いたのが、ホヤが「歩く」という話だった。

歩くホヤの名前はチャツボヤ。おだやかなイノー(礁池)から潮通しの良い礁斜面まで、どこでも見られる超普通種。沖縄で潜ったことのあるダイバーなら誰でも一度は見ているはずだ。あいつが歩いているなんて! でも歩いているところなんか見たことない!

チャツボヤが人知れずわざわざと海底を歩いている図を想像して、私は一瞬気が遠くなった。

いや待てよ、最近チャツボヤを背負って歩くカニが沖縄のダイバーの間で人気だが、もしかしてあれのことではなからうか?

そこで先生によく聞いてみたところ、さすがに「歩く」というような速さではなく、気がついたら動いていた、という程度の速度なのだそうです。

それにしても、なぜホヤが歩くのだろう? チャツボヤは濾過食(プランクトンなどを海水から濾して食べる)だし、共生藻も持っている。

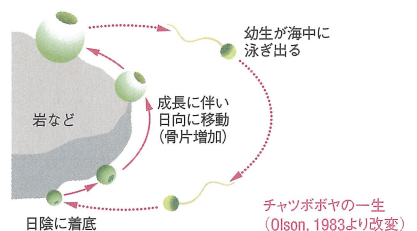
エサを探して自分から動き回る必要はなからうに……。

ところが、エサと結びつけて考えたのは私の早とちりであった。ホヤの成体(大人)は固着動物=いったんその場所に居着いたら、もう動かないでその場で一生を送る生きものだが、成体になっても環境に応じて移動する種もあるそうだ。どんな時に移動するかというと「詳しくはわかっていませんが、体を紫外線から守る骨片が若い群体ほど少ない。そのあたりに理由があるかもしれません」

ホヤに骨がある? と私はここでまたビックリしたのだが、いちいちビックリしていたら話が前に進まない。とにかく、ことほど左様に紫外線は生物にとって有害だ、ということですね。まだ骨片がないホヤ幼生はまず日陰に着底・変態し、成長して骨片等が整ってきたら日向に移動する……という研究がある。深場のホヤは骨片の密度が低く、太陽光がよく届く場所のホヤほど骨片密度が高いという研究もある。チャツボヤを見習って、海に行く前はダイバー諸賢も日焼け止めを塗ったり長袖を着たりすることをお勧めします。

話を戻すと、ホヤの歩行速度は「1日で意外なくらい動きたいですよ。ビデオ撮影して早回しすれば見えるくらいの速さかも」

誰か挑戦して、ユーチューブに投稿して!



文=中野理枝

Profile>>1987年0W取得。96年あたりからウミウシに目覚める。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。「本州のウミウシ」を編集・執筆。2007年4月、琉球大学大学院に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に進出中。

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>>1991年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、1997年より琉球大学に勤務。なりゆきでメダカ、コペポダ、内肛動物、ジャコガイなどの研究にも巻き込まれている。▶www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ